

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 若命 浩二

作成日 2024年2月26日

【責任】 薬学科薬理学分野に所属し基礎系の生化学、専門系の薬理学、また応用系の医薬品開発論、選択科目のサプリメント概論、基礎系の実習（薬理、微生物、生薬）を担当している。卒業研究では学生個々に基礎実験系についてテーマを持たせて実施している。委員会活動としては、動物実験委員会、薬草園運営委員会に所属。

【理念】 学生には、薬学や健康そのものに興味を持ってもらいたい。薬学科の学生の中には薬剤師の資格を取得することを目標にしている者が多数だと思うが、それ以前に薬学に興味を持ち、学問の楽しさを身につけることにより「持続的に生涯学習への意欲」を促すことができる。すなわち、これからの薬学は日進月歩であり生涯を通じて最新の情報を収集し、継続的に学修する必要があるために「薬学に興味を持つ」ことは大切である。

学生には、薬剤師になって人々の健康に役立つ人材になってもらいたい。社会に出た後にどのような意識で仕事をするのかということにおいて、医療職である以上は「人々の健康に役立つこと」を意識付けが必要である。国家としても「健康日本 21 宣言」により国民の健康寿命の延伸を掲げており、そのために国民個々と医療従事者の健康への共通認識が重要となる。つまり、薬剤師という仕事は「医療人」としての理念のもとに行われ、人々の健康に役立つ薬剤師の質が求められる時代になる。

学生には、コミュニケーション能力を身につけて学生生活、仕事の幅を広げてもらいたい。これからの薬剤師の業務は「対物」ではなく「対人」の仕事にシフトするため、学生時代から「多様な価値観やコミュニケーション能力」を身につけて欲しい。具体的には、患者宅へ訪問する在宅医療、地域包括ケアによる終末期の対応など、今後ますます多職種、地域との連携が重要となるため。

これらの理念を統合して「社会の役に立つ人材（薬剤師）の育成」に取り組みたい。

【方針・方法】 上記の理念を実現するために薬学科全体においてもいくつかの取り組みがなされている。例えば、低学年時から始まる実習では、実際に医療の現場でを体感して早い時期から医療人としての意識づけを行っている。また、5年生から始まる「実務実習」では、実際に病院・薬局へ学生が派遣されるので、その前に社会人としてのマナー、コミュニケーションなどについて学ぶ機会が与えられる。

さらに、本学は工学系、医療系の複数の学部、学科が混在した実学系総合大学であるために、サークル活動などを通して多様な価値観を持つ人々との連携について学ぶ機会がある。卒業後は、「薬剤師生涯教育」を通じて常に最新の薬学、医学的な情報を入手して持続的に学修できる環境があるので、そのような場に積極的に参加するように促す。

方針1「講義に集中し、実験・実習においては小さな成功体験を積む。」 講義をより有意義にするためには、学生と教員の双方の協力が必要である。よって、特に座学においては教員が一方向的に情報提供するのではなく、質問の時間、グループ学習の時間、小テストと振り返りなどを通して講義に集中できる環境になるように配慮する。特に、薬学の情報は日進月歩であるために、教員側でも教科書以外の最新の情報を常にキャッチして学生に伝えることを心がける。教員自身が薬学に興味を持って、新しいことについて講義をすると、そのような意識を持った学生がオフィスアワーに教員を訪ねてくるようになって良い循環が生まれる。

実験（学生実習、卒業研究）は、できるだけ自分やグループで調べて実験をしてレポートを仕上げることを促す。また、失敗を責めずに小さな成功を認めることによって「実験することの楽しさ」を覚えてもらう。これらの実験を通じて薬剤師にとって、実験・研究に関する思考は医療の現場において予期しない出来事を科学的に実証し、対応できる要素を身につけてもらう。

方針2「薬剤師という職種に興味を持ち、国家試験取得のためにポイントを整理して学ぶ。」薬学科全体としても「薬剤師とはどのようなものか」という教育をしているが、自分の講義や実習においても（特に生薬実習やサプリメント概論）、「薬剤師は医薬品だけではなく人々の健康そのものに寄与できる仕事」であることを教える。このことにより薬剤師という職種に興味を持ち学修意欲を高めてもらう。

また、低学年時から薬剤師国家試験に関連のありそうな問題を解かせることによって、できるだけポイントを整理した学習ができるような習慣づけを与える。

方針3「課題レポート作成、実習、卒業研究、課題発表において他者との関わり、コミュニケーション能力を身につける。」薬学科としては、「体験実習」「実務実習」を通じて医療人として多職種との関わり方についての学びを深めさせる。また、卒業研究ではグループで取り組む課題を与えて、他者と関りながら目標を達成することについてのトレーニングを行う。実習では、課題発表会において役割分担、チーム活動などについてコミュニケーション能力を身につける。

【成果・評価】

- ・講義については、学生からの評価アンケートの結果を鑑みて、随時講義内容、方法についてブラッシュアップを行う。
- ・学修に関する学生からの個別相談を受ける機会を増やし、自身の教育方針に関しても学生側からの意見を得るようにする。
- ・卒業研究生（ゼミ生）の国家試験合格率をあげる（9割以上）ように支援する。

【目標】

短期（低学年～高学年）：

- ・講義においては、学生からの質問、意見を引き出すように工夫し、どの程度学修に興味や意欲があるか確認する。その上で、さらに薬学の面白さを伝える講義にシフトする。
- ・コミュニケーション能力については、卒業研究、実習においてグループごとの協力を促し、協力しながら結果を出すことの重要性について明確に学生たちに伝える。

中長期（高学年）：

- ・研究については、実際に学会に参加、発表させることにより、科学的な思考、プレゼンテーション能力を身につけさせる。
- ・職業について、OBやOGが大学訪問した際に、ゼミ生との交流の場を持ち、薬剤師という仕事はどのようなものか生の声を聞くことができるようにする。